



～今、「青少年育成支援活動」の手応えを実感して～ 会長 峠 テル子



青少年育成アドバイザー会に入会してから約30年、研修会や勉強会のほとんどのに参加し、先輩方に学び実践活動をしてきました。常にこれで良いのだろうか、あの青少年の手助けになっただろうか、また、後輩への的確な指導は出来ているだろうかと自問自答を繰り返してきました。

そんな私ですが、実践活動に手応えを実感した出来事がありました。具体的には昨年の、地元愛知県での子ども向けイベントに大学生を巻き込んだ時です。大学生が紙芝居を使い、子ども達に携帯電話の正しい使い方を伝えるイベントです。私が大学生に紙芝居の読み方のコツを伝え、大学生たちは参加した子ども達に伝わる様に「自発的に自分で考えて」、表情豊かに・抑揚を付けて紙芝居を演じています。それを観ていた子ども達もまた親御さんも「読みたいです」と手を挙げてきました。会場は大盛り上がりです。学生たちはこの飛び入りの方たちのファシリテートをしています。準備段階から後片付けまで参画し、ファシリテーターとしてやり切った大学生達の満足げな姿が印象的でした。あの時の学生さんたちは社会人3年目です。先日、「あの時の経験が社会人生活に役に立っています」とSMSで教えてくれました。私が参画型活動の素晴らしさと手応えを実感した出来事です。

さて、全日本アド連会長を拝命したこの4年間は、大半をコロナ禍下で過ごし、やり残したことが多々ありますが、この度令和5年度の会長を、現副会長の香川県の香川勝氏にバトンタッチいたします。

私の在任中には、全日本アド連の所属する各県一斉に「実態調査2021」を実施し、「実態調査2021」をクロス集計して各県に配布すると共に、その後クロス集計を更に分かり易く分析した「実態調査2021」も作成しました。紙上調査では伝わらないことも大いに有りますので、今後は私が皆様と直接お話しして伝えて参りたいと思っています。本活動が、香川新会長の活動の一助となりますと幸いです。

最後に、宮後 弘満事務局長を始め各役員の皆様、そして各県の会員の皆様、この4年間をお支え頂きました事に心から感謝申し上げます。

全日本青少年育成アドバイザー連合会の益々の発展と、香川 勝次期会長のご活躍を御祈念いたします。



子どもが伸びるチャンスを
活かそう

2月25日 愛知県青年の家にて

第4回理事会の開催

- (1) 令和5年度理事会役員及び理事の改正案について
規約の規定により以下のとおり内定
会長 香川県会長 香川 勝氏 事務局長 鳥取県アド 清水成真氏
副会長 北海道・東北ブロック会長 関東・甲信越ブロック 千葉県会長
北陸・中部・東海ブロック会長 近畿ブロック 和歌山県会長
理事 北海道・東北ブロック副会長 関東・甲信越ブロック副会長
北陸・中部・東海ブロック副会長 近畿ブロック 兵庫県会長
中部・四国ブロック 鳥取県会長 高知県会長

- (2) 令和4年度青少年育成アドバイザー養成講習会結果と今後課題について
 - 2月24日～26日 愛知県青年の家にて開催
参加者 新規 29名 既存アド 25名 合計54名受講
 - 令和5年度青少年育成アドバイザー養成講習会の開催
開催日時 令和6年2月23日(金)13時～25日(日)15時
開催場所 国立オリンピック記念青少年総合センター
募集数 70名
 - 青少年育成アドバイザー養成通信講座の募集要領について
年2回募集を随時募集に変更 事務局にて受付

- (3) 令和5年度アド連総会・研究集会開催について
 - 主題 「子どもの伸びる力生かすために、青少年育成アドバイザーとしてどうかかわるか」～子ども達の笑顔のために 支え 育もう～
 - 主管 中国・四国ブロック青少年育成アドバイザー連合会
香川県青少年育成アドバイザー協議会
 - 開催日時 令和5年6月10日(土)13時～11日(日)12時
 - 場所 香川県丸亀市富士見町
総会・研究集会会場 ポートレースまるがめ会議室ROKU
交流・懇親会 オークラホテル丸亀(兼宿泊場所)
 - 青少年育成アドバイザー会 会員 60名
参加費 2万円 参加申込期日 5月8日(月) 参加費納付期日
5月22日



『ありがとう一日100回運動』
ありがとうシールの活用を

青少年育成アドバイザー養成講座の開催

令和5年2月24日～26日

愛知県青年の家於



受講者 新規受講者 29名
既存アド 25名 合計54名



課題選択によるグループワークの様子



修了書交付

次年度開催予定 日・場所
令和6年2月23日～25日
国立オリンピック記念青少年
総合センターにて開催





課題 第1の1 グループ発表 藤原睦己氏 山口直美氏 山田佐智子氏 千田果菜子氏
中山健充氏 原俊司アド 鳥越進アド 松原厚子アド 村野政章アド



課題 第1の2 グループ発表 浦野雅弘氏 高橋長良氏 天野好美氏 鳥居文子氏
西浦公子アド 村田靖子アド 黒田忠晃アド



課題 第1-3 グループ発表 稲益正朗氏 島貫純子氏 大西ひとみ氏 中村彰臣氏
三好恵子氏 宇野晃アド 池野定雄アド 鳥越進アド



課題 第2 グループ発表 松岡徳雄氏 西鼻美由紀氏 田畑守行氏
下田太一講師 成瀬眞佐子アド 桑畑恵子アド 宮後弘満アド



課題 第3の1 グループ発表 杉原潔氏 早津小波氏 新勝彦氏 富田真澄氏
福田幸奈氏 松岡慎也氏 峠テル子アド 小路力子アド 西上洋治アド



課題 第3の2 グループ発表 河村めぐみ氏 山内敏和氏 渡邊文夫氏 前園大介氏
毎熊幸代氏 吉田敦氏 山本邦彦アド 香川勝アド 大野照明アド 吉田正治アド



新受講者の声

デジタル社会になればなるほど社会教育を

鳥取県 新 勝 彦

私は、子どもが出来て20数年青少年健全育成に関わってきました。そして、最近こんなことを思うようになりました。

4G、5G、6Gが進みひょっとしたらドラエもんの世界がすぐそこまで来ているような気がしました。しかし、その弊害として子ども達を取り巻く環境は段々と未知との遭遇になっています。取り残された子ども達は、自分の居場所を求めて、迷走しながら生活しています。そして、世の中の仕組みも支援もデジタル社会へ大きく舵を取っています。社会の仕組みが便利さを取り入れるばかり、人間「人」の本来あるべき姿を忘れているように思う。世の中の仕組みがデジタル化すればするほど、人間が本来持っている「アナログ」的な感情はデジタル化できないと思う。

人は、未だに切れれば「血」が出ます。人は、ロボットのように取り替えることはできません。「人」は唯一無二の存在です。昨今、「人」づくり教育＝社会教育という言葉さえ死語になりつつあります。先ほども言いましたが、20数年社会教育に携わりプレーパークという「冒険遊び場」に行き着きました。行き着いたプレーパークは、何かを提供する場所ではなく、何かをすれば良いし、しなくても良い。自分の責任において自由に遊ぶ空間『場所』です。

なぜか、その場所は、子ども達以上に大人がはまります。大人は、自分の子どもの頃に行った遊びがそこにあるので、童心になって遊びます。そこで、大人の楽しむ姿を見た子ども達は、次の子ども達に繋げて行ってくれると思います。まさに、「人」・「人間」の循環型社会＝SDGsです。

今回の、養成講座で社会教育の重要性を再確認させていただきました。これまでは、子ども達に「成功体験」をさせてあげようと少々仕組んできたこともありましたが、福留先生が「失敗体験も大事だよ。面白いよ。」と言われた言葉にうなづいている多くの参加者がありました。そのことも加味して、今後、活動をする意味を勉強させていただいた3日間でした。本当にありがとうございました。



アドバイザー会からのお便り

令和4年度広島県青少年育成アドバイザー養成講習会

会長 内山幸光

日時：令和4年12月25日（4日） 9：00～16：30

場所：福山市自然研修センター（ふれ愛ランド）

参加者：新規3名 既アド9名

数日前まで心配された大雪情報も当日は、関係なく晴れて安堵する中での開催となりました。12月24日の18時より福山駅前のホテルで、クリスマスディナーを楽しんで会場のふれ愛ランドへ移動しました。会場設営を済ませて、翌日のスケジュールを確認して、幹事室に集合して峠会長からの情報提供や広島県アドの活動内容についての情報交換をしました。

翌日は、9時より開会挨拶の後、ふれ愛ランド門田所長の挨拶をいただきスタートしました。トップバッターは、峠会長の「アドバイザーの役割」続いて、福山市青少年・女性活躍推進課の宮谷課長より「福山市の青少年育成活動について」のテーマでの講演を受けました。続いて広島県環境県民局県民活動課の大野主任より「広島県青少年健全育成条例について」と題して講演を受けました。

午後は、福山市中央青少年育成協議会の長澤会長より「地域の親・子どもとのかかわりの中で」と題して実例をもとに詳しい体験談を聞きました。その後は、アド会員より2件の活動事例を紹介しました。今回は、新しく3名の参加がありそのうちの1名は、全日本アド連の養成講習会に参加していただくこととなりました。



兵庫県青少年育成アドバイザー協議会 会長 芝 和子



阪神淡路大震災後、神戸の復興を願いメッセージを発信している「第24回メッセージ大会」を11月27日（日）に 兵庫県民会館 青少年交流プラザにおいて「自己啓発・発表の場」をテーマに10名の皆様にメッセージを発表していただきました。

発表

- ①「さて、どうしよう～」
- ②褒めて育てた我が家の場合
- ③ドラえもののポケット
- ④子ども達と一緒に未来を！
- ⑤（SDG s）始めました
- ⑥趣味で人生は豊かになる
- ⑦話さなければわからない
- ⑧子どもの人権

芝 和子
三好恵子
岩永知子
黒谷静佳
青木芳子
岡田ちひろ
荒井 勳
後藤みなみ



発表後の感想・交流会

休憩をはさんで、それぞれが話足りなかったこと、聞きたいことや、聞き逃した話を聞きたいな～の声もあり会話が弾みました。

- ・竹パウダーに関して、皆さんから聞いた話を生活に取り入れたい。
- ・子どもがSDG sに取り組んでいる。震災後の復興が良くわかった。
- ・子育てが間違っていたかも？子どもの主体性を育てるのが大切。
- ・子どもたちには、いろいろ経験をさせる事。
- ・食の安全を若い人に聞いてほしい。次世代を守るために。
- ・コロナで体力、精神的に衰えている。
- ・人との会話、趣味を！ 子どもをもう一度育てたい。
- ・定年後、テニス、英会話を始めました。



ありがとうシール
(大) 見本

『新年意見交換会』

茨城県青少年アドバイザーの会 作山 融 照

令和5年癸卯、本年は「癸」と「卯」の組み合わせから、これまでの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍する年になると言われております。そんな中、年明け早々に青少年育成アドバイザー東京会との意見交換並懇親会を茨城の地に於いて開催をいたしました。

先ず茨城県水戸市、田山会長宅で各会の活動報告、各種意見交換を行いました。やはり両会共にコロナ禍の活動制限、感染対策への不安等があり思った様な活動ができていない現状が続き組織の弱体化見えている状態でありました。今後どの様にして新しい会員を増やし活性化ができるかが最大の課題だと思いました。今後は共同で様々な活動を行っていききたいなどの意見が出て、今後の青少年育成活動のさらなる発展を誓いました。

その後大洗町に移動し昼食を兼ね茨城、東京各会員の自己紹介や今後の共同活動案等とても今後が楽しみな懇親会を行うことができたと思います。宜しく申し上げます



青少年のまちづくり参画の意義・方法

～ 青少年の活躍の場を まちにひろげよう～

はじめに 青少年にとって「まち」とは何か
まちづくりの意義
青少年にとってまちが果たす役割



講師 福留強教授

1. 子どもの欠損体験の補完と学習機会の拡充

■生活体験が豊富な子ども、道徳観・正義感が充実
「生活体験・自然体験が日本の子どもの心を育む」生涯学習審議会答申
(11・6)

(1) 欠損体験の事例と改善(補完)の方策

	欠損体験の事例	具体的に欠如すること	改善の方策
1	基本的な生活習慣が確立していない	礼儀作法、言葉遣いが身に付かない 異世代の交流	スポーツなど心身を鍛える体験
2	自然との接触体験が少ない	実体験が欠如自然への畏敬の念が欠如	地域や自然での活動自然や芸術など親しむ感動の体験
3	困難体験が欠如している	過保護と放任 耐性の欠如	心身を鍛える体験
4	共同作業・協働生活の体験が欠落	連帯感が育ちにくい相互交流や信頼感が欠如	異年齢の集団体験青少年団体等
5	自発的な活動体験が少ない	生活が管理されている	自主的な活動計画の活動
6	社会参加の体験が少ない	思いやり、感動性が少ない	地域活動。ボランティアへ
7	勤労体験が少ない	勤労感謝の念が欠如働く喜びの体験の欠如	働く体験家事の手伝いなど体験

※「生きる力」 中央教育審議会答申「21世紀を展望したわが国の教育の在り方について」

(2)日本の青少年教育の弱点

「冒険」「挑戦」「鍛練」の教育機会の欠如 社会教育の役割大

- ①指導者が研究を
- ②指導者が自信を持つ。信念を持つ 目標設定から必ず実現させる力。
- ③指導者は勇気を持って実行を。 **指導者に勇気と自信と信念が欠落している！！**

2. 地域の青少年育成活動の役割と必要性 社会教育の役割

- (1) 青少年教育にとって町が果たす役割
- (2) 青少年がまちづくり関わる意義

- ①子どもの生きがいづくり 企画の段階から参画させ自主性を伸ばす
- ②子どもも市民 市民としての存在・責任を自覚
- ③子どもの参加で、地域を活性化 ミュニティの形成に青少年の力は不可欠
小学生町内会委員
子どものアイデアは新鮮である
- ④子どもの発達に適切な活動 他世代や指導者等との交流
- ⑤社会参加は、学習成果発揮の場 学校教育の学習成果発表の場
- ⑥子どもの社会性の育成 大人との交流の場、体験による自信など
子どもをめぐる市民交流の場 教師に注目

3. 子どもがまちづくりに参加した事例 「まちを創る青少年」東京創作出版

(1) 地域を学ぶ学習への参加(まちづくりに関する学習)

「平成子どもふるさと検地」「一日町長」など

(2) 子ども観光ガイド

街角ガイド (東広島市、岡垣町、井原市)

「子どもおもてなしカレッジ」横須賀市、邑楽町

(3) 生産販売に活躍する例

「北小茶」 中土佐町 (旧大野見村)

「高校生レストラン『まごの手』」相可高校

(4) 子どもが指導者になっている例

「中学生が公民館の講師」(三春町 南部町)

「子ども図書館司書」(矢祭町)

(5) まちの環境保護、美観づくり

花いっぱい運動、僕の好きな場所マップ

(6) 地域を研究し、提案する活動

福祉マップ、環境マップづくり

(7) 子どもが地域の主役になる場

「めんこいガールズ」ミュージカル

5. 創年の出番 指導者自らの生き方

(1) 創年運動

「7掛けの年齢」で生きる 1万1千人が参画

創年とは、自己を生かし、自身をよりよく創り変え、積極的に生きようとする生き方

創年活動 ①創年の学ぶ場 創年市民大学

② 創年のたまり場 青少年の育成の拠点 育成アドバイザーの場

③ 年金プラス5万円

④コミュニティ形成(まちづくり) 青少年育成

(2) 地域社会の指導者としての創年の役割

① 青少年に伝える役割 ぶれない軸

② 効果的な青少年に学ぶ姿勢

③ 自己覚知 青少年の信頼が厚くなる?? 子どもに学ぶ姿勢

6. 地域全体で子どもを育てる

事例、地域で子どもをほめて育てよう

地域ぐるみで子どもに与える影響 よい子とすれば必ず誰かが見てくれる

(1) 地域で子どもをほめる意義

① 愛情を持って相手を見つめる行為

② 子どもと目標を共有すること 的確にほめる行為

③ ほめてくれた相手を尊敬すること 相互の信頼関係が基本

④ 優れた人にほめられる喜び 伸びるための条件

⑤ ほめられたことによる自信、意欲、情緒の安定 ※叱ることの大切さ

(2) 子どもをほめよう運動 児童生徒表彰条例 [子ほめ条例] のまち

① 「児童生徒表彰条例」が正式名称

鏡野町(岡山県)は、「ペスタロッチ賞」としている

② 全ての子どもが対象 1年から中学3年までに全員を表彰

例 「学芸」「スポーツ」「親切」「奉仕」「努力」「親孝行」「友情」

③ 地域全体で子どもを見つめ、ほめる活動

志布志志など、「創年と子どもの町宣言」

④ 全国子どもをほめよう研究会 子どもをほめる運動の困難さ

(3) 青少年を主役にする工夫を

① 子どもは多くのことができる

店員体験 消防体験、幼児の世話など

② 子どもを見つめては出さず

育成者の勇気と努力が必要

③ 励まし、ほめる努力を

育成者が学びう姿勢が大切

地域に対する誇り、愛着、連帯感が醸成される

7. 事例 「NPO全国生涯学習まちづくり協会」の青少年を対象とする事業構想

(1) 子どもの店長構想と子ども市民大学

毎月第3土曜日小学生店長、店員が活躍

(2) おもてなしカレッジ

(3) その他の分野

- ふるさと産品開発部
- ふるさと産品展示（たまりバカフェ）
- 観光地域振興企画
- 市民大学研究部

◇日中創年活動研究部

◇子供が参画できる分野はあるか

参考資料

- ・「創年のススメ」ぎょうせい「子ほめ条例の町は、変わるのか」イザラ書房
- ・「生涯学習まちづくりの方法」日常出版、「子どもの心を育てる」日常出版
- ・「まちを創る青少年」東京創作出版 「青少年育成支援読本」
(令和4年1月)



講師の皆様誠にありがとうございました

左から西浦会長 福留顧問 萩原顧問 峠会長 山本顧問 下田講師

【編集後記】

令和5年度も新たにスタート致しましたが、皆様お元気にご活躍のこととお喜び申し上げます。

さて、日本国憲法及び児童の権利に関する条約の精神にのっとり、次代の社会を担う全てのこどもが、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、こどもの心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、その権利の擁護が図られ、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指して、こども政策を総合的に推進することを目的とする『こども基本法』が施行され、こどもの最善の利益を第一として、こどもの視点に立った当事者目線の政策を強力に進めていくことを目指した政府の機関『子ども家庭庁』が発足しました。

アド連も「子ども若者育成支援元年」と位置づけ、6月の総会・研究集会で運営スタッフも一新してのスタートとなります。ご多忙な時期ではありますがご自愛され益々のご活躍をお祈り申し上げます。

事務局長 宮後弘満拝